

公益社団法人 日本動物病院福祉協会 (JAHA) CAPP 委員長・戸塚 裕久  
Hirohisa TOTSUKA, Chairperson,  
CAPP Committee, Japanese Animal Hospital Association (JAHA)



○戸塚座長

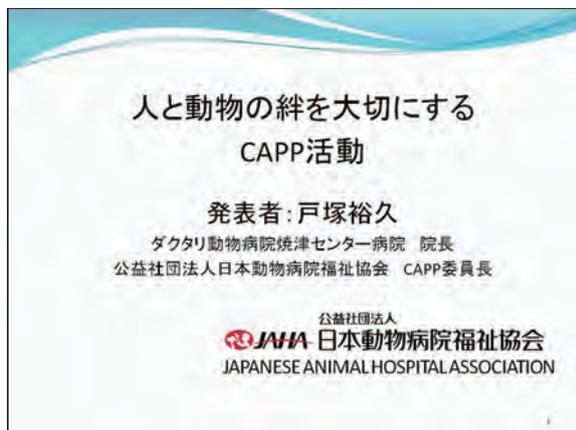
それでは、時間になりましたので御着席をお願いいたします。

これより第2部、公益社団法人日本動物病院福祉協会の人と動物のふれあい活動、CAPPに関する発表を行います。

アドバイザーは、ただいま御講演いただきましたジョンソン先生、それから、今大会の全体のアドバイザーも務めていらっしゃいます柴内先生をお願いいたします。

まず初めに、CAPP活動の総論について、私のほうより発表させていただきます。

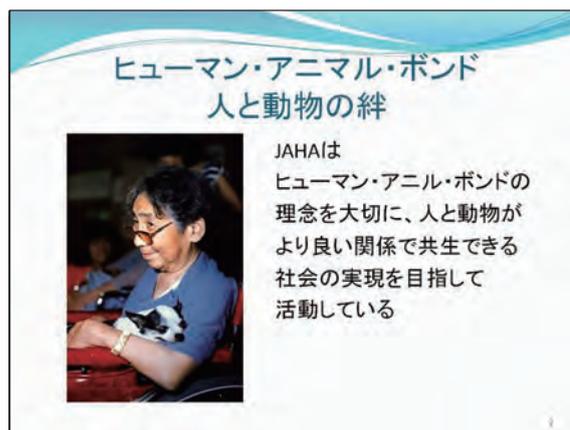
それでは始めます。



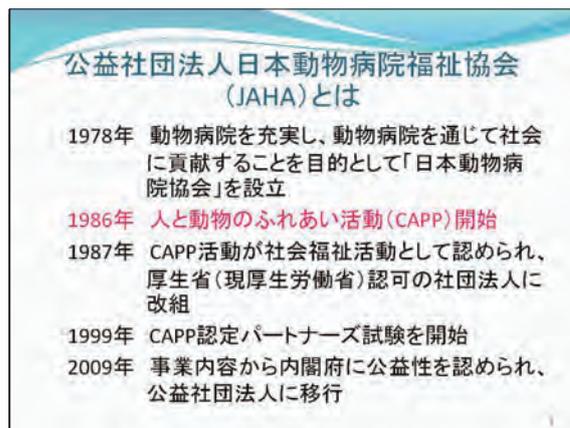
【スライド1】

東日本大震災以降、絆という文字や言葉を見ない日はないほどになりました。公益社団法人日本動物病院福祉協会、JAHAと申しますが、ヒューマン・アニマル・ボンド、人と動物のきずなを大切にする、また、人と動物がよりよい関係で共生できる社会の実現を目指して、1986年から人と動物のふれあい活動を、CAPPを行っております。【スライド1-2】

ただいまのレベッカ・ジョンソン先生にもお話をいただきましたけれども、犬や猫、小鳥などのペットと一緒に過ごすとき、私たちは心から安らぎを覚え、心身ともにリラックスし、健康が増進されることがわかっ



【スライド2】



【スライド3】

てきました。これは人と動物のきずなに由来する相互作用によるものです。

JAHAは1978年に設立し、1986年から人と動物のふれあい活動、CAPPを開始しました。2009年、公益社団法人となり、公益目的事業としまして五つのこと、動物病院及び動物医療の充実のための継続教育事業、動物病院及び動物医療にかかわる専門職等の資格付与関連事業、動物病院による地域社会への貢献を推進する事業、アニマルセラピーCAPP訪問活動推進のための事業、アニマルセラピーに関する調査研究事業です。このうちアニマルセラピー、CAPPボランティア活動推進のための事業についてお話をいたします。【スライド3-5】

## JAHAの公益目的事業

- 1.動物病院および動物医療の充実のための継続教育事業
- 2.動物病院および動物医療に関わる専門職等の資格付与事業
- 3.動物病院による地域社会への貢献を推進する事業
- 4.アニマルセラピー(人と動物のふれあい活動(CAPP))推進のための事業
- 5.アニマルセラピーに関する調査研究事業

【スライド4】

## “アニマルセラピー？”

- 一般的に「アニマルセラピー」といわれることが多いが、JAHAでは **人と動物のふれあい活動(CAPP)**と呼び、以下のことを行なっている
  - AAA: Animal Assisted Activity  
— 動物介在活動
  - AAT: Animal Assisted Therapy  
— 動物介在療法
  - AAE: Animal Assisted Education  
— 動物介在教育

【スライド5】

## AAA(Animal Assisted Activity)

- 動物介在活動
  - 生活の質を高める、何かの動機づけ、レクリエーションの一環として行われる



【スライド6】

## AAT(Animal Assisted Therapy)

- 動物介在療法
  - 医療従事者が主導でおこなう補完・代替医療のひとつ
  - それぞれの患者にあわせてプログラムの作成、治療目標の設定を行い、その効果を評価する



【スライド7】

また、本会では、この活動をその目的により次の三つに大別しています。

動物介在活動、A A A、Animal Assist Activity。これは、先ほどのタイガープレイスでも動物保護を行っているというお話がありましたけれども、動物と触れ合うことによる情緒的な安定、レクリエーション、Q O Lの向上などを主な目的とした触れ合い活動で、一般的にアニマルセラピーと呼ばれる活動の多くがこのタイプです。【スライド6】

動物介在療法、A A T、Animal Assisted Therapy。人間の医療の現場で専門的な治療行為として行われる動物を介在させた補助療法で、医療従事者の主導で実施します。精神的、身体的、社会的機能の向上など、治療を受ける人に合わせた治療目標を設定し、適切な動物とボランティアを選択します。治療後は治療効果の判定を行います。

動物介在教育、A A E、Animal Assisted Education。小学校に動物とともに訪問し、動物との正しい触れ合い方や命の大切さを子供たちに学んでもらうための活動です。生活科や総合学習などのプログラムとして取り入れる学校も徐々にふえています。【スライド7】

## AAE(Animal Assisted Education)

- 動物介在教育
  - 小学校、幼稚園、保育園などを訪問
  - ふれあいや動物に関する学習を通して、命の大切さや正しいふれあい方を学ぶことを目的とする



【スライド8】

C A P P活動に参加しているのは、それぞれの家庭において家族として幸せに暮らしている動物たちです。そして、飼い主と一緒に活動をしています。人間が大好きであり、飼い主以外の人とのコミュニケーションを楽しめる動物であることや、ふだんと違う環境や状況でも、ストレスを感じずに楽しく過ごすことができる適正のあることが大切になります。活動時間は1時間以内に終了するようにしています。また、活動中でも動物の状態を見ながら休憩をとり、動物たちに負担をかけないように配慮しています。【スライド8】

活動に参加するには日常のケアや管理が重要で、寄生虫の予防、適切な食事管理、ブラッシングやシャンプー

## 人と動物のふれあい活動(CAPP)

Companion Animal Partnership Program

- 家庭で家族として幸せに暮らしている動物たちが飼い主と共に参加している
- 健康面、衛生面、安全面をクリアし、性格的な適正を持った動物が参加



【スライド 9】

## CAPP活動の実績

- 1986ー2011年12月まで(延べ回数)
  - 活動回数 13,187回
    - 医療施設 2,492回
    - 高齢者施設 8,090回
    - 児童関係施設(学校含む) 293回
    - 心身障害者(児)施設 2,224回
    - 催しでの活動 88回

【スライド 10】

## CAPP活動の状況

- 1986ー2011年12月まで(延べ)
  - 参加ボランティア 105,490人
  - 参加獣医師 21,518人
  - 参加動物
    - 犬 77,609頭
    - 猫 18,271頭
    - その他(ウサギ、モルモット等) 6,334頭

【スライド 11】

## CAPP認定パートナーズ試験

- CAPP活動に参加しているボランティアと動物のペアが、さらなるレベルアップを目指す試験
- 実技試験
  - ペアを組む動物のハンドラーとして適切な対応ができるかのチェック



実技試験に合格すると・・・

【スライド 12】

など衛生面のほか、年1回の健康診断書の提出、この場合、医療施設での活動の場合は年2回となりますが、これを義務づけることで健康面にも配慮しています。活動回数は、2011年12月までの26年間で、述べ回数は1万3,187回。各施設は表にあるとおりです。参加者数は、ボランティアと獣医師を合わせて12万7,008人で、参加動物は合計で10万2,214頭になります。とても多くのボランティアと動物が参加しています。

J A H Aでは、C A P P活動に参加する多くのボランティアや動物たちにとって目標となる認定基準を設けています。認定試験では、活動に対する飼い主と動物の適正、C A P Pボランティアとして必要な知識、さらにはボランティアチームを率いる立場となるための知識や意識を持っているかをチェックします。実技試験、筆記試験の両方に合格するとC A P P認定パートナーズとなり、チームリーダーの資格取得や動物と飼い主のペア単独での活動が可能になります。現在の認定パートナーズの数です。

そのほかにもボランティアチームのレベルアップを図り、参加ボランティアのモチベーションを維持するためにさまざまな支援を行っています。C A P P活動マニュアルやDVDの作製と配布、年次大会とW J V F大会での活動報告や研究発表、継続教育セミナーの開催、チーム強化のための研修会の開催などを行っています。

ボランティアチームでは、各施設での触れ合い活動だけでなく、地域の動物愛護フェスティバルへの参加、全国健康福祉祭り、ねんりんピックへの参加などを行って、社会へ向けてのPRを行っています。このようなことも、ボランティアにとってはモチベーションの維持につながっていくこととなります。【スライド 9】

最後に、人と動物のきずなを大切にするC A P P活動は、参加する動物たちの健康や福祉に配慮し、苦痛や負担を与えることのない楽しい活動です。また、その活動を通して動物と飼い主の信頼関係をさらに強固



にし、大切なきずなをよりよいものにすることができます。どうぞ皆さん、人と動物のふれあい活動、C A P Pに参加してください。【スライド 10-17】

以上、終わります。

質問がありましたらお願いいたします。

○質問者

自分の愛犬も特性があれば、このC A P Pに認定はされるのでしょうか。一応、そういうのにトライしてもいいのでしょうか。

### CAPP認定パートナーズ試験

- 筆記試験
  - CAPPボランティアとして必要な知識、さらには、ボランティアチームを率いる立場となるための知識や意識をもっているかのチェック



実技試験・筆記試験の両方を合格すると・・・  
『CAPP認定パートナーズ』となる

【スライド 13】

### CAPP認定パートナーズ

- 1999年の認定開始から2011年現在まで
- 認定犬 98頭
- 認定猫 20頭
- 認定うさぎ 1頭 を認定



チームリーダー資格取得やペア単独での活動が可能となる **合格しました♪**

【スライド 14】

### CAPP活動ボランティアチーム

- ボランティアチームのレベルアップ、モチベーション維持を目的としたおもしろ活動
  - マニュアルDVDの作成・配布  
⇒全国共通の活動を行えるように
  - WIVF大会や年次大会での活動発表・報告  
⇒情報収集・情報交換の場
  - ボランティア継続教育セミナー(年1回以上)
  - 個々のチーム強化のための研修会開催

【スライド 15】

### CAPP活動を通しての社会参加

- 地域の動物愛護フェスティバルへの参加
- 全国健康福祉祭「ねんりんピック」への参加



【スライド 16】

### おわりに

- 人と動物の絆を大切にしているCAPP活動では、参加する動物たちの健康や福祉に配慮して、苦痛や負担を与えず楽しく活動している。
- 動物とその飼主の信頼関係をさらに強固にし、大切な絆をより良いものとする事ができる。
- 皆さん人と動物のふれあい活動(CAPP)に参加してください。

【スライド 17】

○戸塚座長

まず、参加動物の基準がありますので、その参加はすべて自分が飼っている動物ということになります。家族と家の中で一緒に暮らしている動物が対象になります。それは犬であっても猫であってもウサギであってもいいと思います。

それから、C A P P 認定試験を受験するためには、また基準がありますので、活動に 10 回以上参加しなければいけないですとか、健康診断書の提出ですとか、あるいはチームリーダーの推薦がなければいけないですとか、そういうものをクリアして、C A P P 認定試験というのを受けます。実技試験に合格すると筆記試験ということになります。筆記試験で合格しますと、その筆記試験というのは、チームリーダーとして自分がチームを率いたときに十分な知識を持ってるのかとか、あるいは社会に向けての P R がきちんとできるのかとか、そういう人間としての適正を見て、認定試験をクリアするわけですね。

○質問者

難易度はどのぐらいなのでしょう。

○戸塚座長

やはり人と動物のペアという形での適正も見ますの

で、人だけのものでもないし、動物だけのものでもないものですから、難易度といっても、活動によくなれてる方なんかでは比較的楽じゃないかなと思うんですね。でも、実際に基準として10回以上参加していれば受験できるんですが、ついこの間も認定試験を私、認定委員としてやりましたけれども、本当にもう1年ちょっとしか経験のない方は、まだ十分、動物との活動になれていない様子が見られましたので、申しわけないんですが、筆記試験には進むということはできなかったです。

だから、動物がすばらしくても、人との組み合わせというか、その行動を見ますので、例えばリードを強く引いてしまうだとか、動物に苦痛を与えるようなことがあっちゃいけないわけですね。ですから、難易度といっても人によっていろいろだと思います。活動になれていれば、非常に難しくはないと思います。

○柴内先生

御質問なさってらっしゃる方は、CAPPに最初に参加するのにはということですから、CAPP認定パートナーズの試験についてでしょうか。初めての。

○質問者

どちらもです。初心者なんですけど、1個1個やっていっても伺ってるとすばらしいものですから、社会貢献がうちの犬のできるのであればぜひと思って伺って見たんですが。

○柴内先生

最初の段階ですね。最初、どんなふうにしたらいいんだろうかというお気持ちでしょうかね。

○戸塚座長

よく見られるのは、自分が参加したいために犬や猫を無理やり連れてくる方がいるんです。でも、犬や猫に適正がなければ、やはり動物虐待につながるようになりますので、参加をお断りしています。やはりその動物が人間が好きだ、あるいはたくさん動物が集まってもおとなしくしていただけるんだとか、活動時間というのは大体長くて1時間半、2時間あるわけですけども。活動時間というのは、最初に集合して打ち合わせをして、活動を行って、終わってから反省会というすべての流れの中で、1時間半、2時間、排せつをむやみにしないだとか、そういうことも必要になってくると思うんですね。

○柴内先生

もしも今、あなたがいらっしゃる地域、全国ですからさまざまになりますので、もしあなたと一緒に暮らしていらっしゃるわんちゃんがとてもいい子で、きっと

この活動をお手伝いできそうだなと思われたときは協会のほうへ御連絡とられると、協会で地元が一番近いチームをお知らせします。そのチームリーダーの方とも御相談なさると早くなると思います。東京に事務所がありますので、東京の事務所すぐに講義を受けに来てくださいという無理なこともありますので、地元チームのチームリーダー、すばらしい方たちが、もしチームがあればその地域に、その方がおられれば手早く可能性のチェックもしていただけたら、そういう手続のお手伝いもしていただけたらと思いますので、ぜひ協会のほうへ御連絡をとっていただくと御説明書なども送ってくださると思いますので、よろしくお願ひします。

○戸塚座長

そのほかに御質問がありましたら、どうぞ。

○質問者

カガリといいます。どうもいろいろありがとうございます。

今、そのCAPPの認定パートナーズのお話を聞かせていただいて、スライドの中にも犬がたしか80頭、猫が二十数頭というデータも出ておったように思うんですが、人も同じぐらいと考えていいんですよね。

○戸塚座長

ペアですから。

○質問者

それで、その中の認定を受けておられる方々の業種というか職種、当然主婦もいらっしゃるでしょうけれど、例えばドッグトレーナーをしてるとか、いろいろある、獣医さんもいらっしゃると思うんですけど、わかりましたらその業種、職種をちょっと教えてほしいんですが。

○戸塚座長

協会のほうでは、認定パートナーズを受験されて合格された方の職種をすべては把握はしておりませんので、ちょっとわかりません。



それから、今挙げていただいた数、私どもが考える数としてはまだまだ足りないと思うんですね。これは皆さん遠慮なさって受験されないのかなと思うんですが、26年間この活動を行っての中で、C A P P 認定の数としてはまだまだずっと少ないと思います。あの倍以上あっても不思議ではないと思うんですね。ですから、経験を積んで、2年、3年と経験を積まれた方、ぜひともC A P P 認定を受けてほしいなどは常に思っています。

○質問者

わかる範囲内の業種はわかりませんか。

○柴内先生

例えば私、東京にたくさんのチームがおりますので、その中で見ますと、やはりボランティアさんの男性、女性の差は圧倒的に女性なんですね。それで、男性が1チームに1人ぐらいずつということはとても多いんですが、やはりこれは活動現場が日中に活動に伺ったりすることが多いので、余りお休みになりにくい職種の方は難しいと思いますね。

それで、やはり一番多いのは主婦の方が多いように私は感じていますが、いかがでしょう、村田先生のところはどうか。もちろん仕事を持っていらっしゃる方もおられますけども。

○質問者

済みません、神戸市でC A P P 活動を行っている村田といいますけれども、うちでは、やはり柴内先生がおっしゃったように、主婦の関係の方がやはり多いかなという印象があるのと、やはり動物病院関係、獣医師、あるいは看護師さんが多いかなというふうに思います。普通にフルタイムでお仕事されている方は活動が平日の昼間なので、なかなか難しいのかもしれないです。

○戸塚座長

ちなみに私のチームのところで認定パートナーズを取ってるのが、今のところ8名です。その中で1名だけ私、あと7名は主婦です。ですから、全体的に見て



も、今お話伺っても、主婦の方が多んじゃないでしょうか。

○レベッカ・ジョンソン

コメントしたいんですけども、デルタ・ソサエティーの理事会の役員ですので、デルタ・ソサエティー、我々の組織の中では、認定、いわゆるトレーニング、そしてペットパートナーチームでもってトレーニングを行っています。このペットパートナーチームでは1万人がいて、そして何百万のビジットということで、必ずしも主婦ではないんですよ。そして、夕方でも行きますし、週末にも行きます。そして、50%が大体男性なんです。そして、夕方に訪問することが多いんですね。ですから、必ずしも平日の昼間というわけではないので、ぜひこの範囲を広げられてはどうでしょうか。夕方にできる人に参加してもらおうと。やはりそういった方々のストレスの緩和になるんじゃないですか。動物と夕方過ごすということでストレスの緩和になるんじゃないでしょうか。

○戸塚座長

実際に、活動に行く現場の施設のほうの要望として多い時間帯が午後の時間ということで、お昼が終わった後、そして夕方になる前にという要望が多いために、そういう時間に設定しているチームが多いと思います。

○柴内先生

私、海外の活動を拝見しますと、多くの場合が私たちのようにグループで訪問するのではなくて、単独の訪問で、特にデルタの資格を持っていらっしゃる方が全国にたくさんいらっしゃるんですね、アメリカには。その方たちが、自分のパートナーとペアで訪問されますね。そうすると、小児病棟でもお昼から夕方までいる方、夕方から夜にいる方と、常にボランティアさんのペアが入っていらっしゃるんですよ。ですから、訪問形式も違うんですね。日本の場合は、やはりJ A H A という獣医師の団体がこうした行動をしていることにある程度の信頼度があってスタートしていますので、比較的このグループという動きが多いわけですね。

そういう意味から言いますと、ペアで行ければ夕方から先ということも十分可能ですが、施設側が割と5時にお食事したら、あとはお休みいただくための準備に入ってしまうと、そのときに、またペアが来てくれることになれていただいたり理解していただかないと、その時間帯は難しいかもしれません。でも、きっとこれからは、私たちも願っているとおり、このC A P P 認定パートナーズの方たちがそういう単独の動きをしてくださることがやっぱり発展的になっていくんだと、

こういうふうにならしているということで、先生のサジェスションは非常にありがたいと思います。

○戸塚座長

ありがとうございます。ほかに質問。

はい、どうぞ。

○質問者

済みません、一般の者なんですけれど、C A P Pには動物と一緒にではなくて、人間だけで参加することができるのかということと、あと、そういう場合にどういった活動内容になるのかということをお話していただきたくて、うちの犬がもう15歳で高齢です。

○戸塚座長

ちょっときょうの発表の中では触れませんでしたけれども、当然チームという中には、動物なしで参加される方も何人かいらっしゃいます。その方々は、動物を連れてくる方の補助をされたり、例えば大型犬で荷物が多い方なんかの荷物を持ってあげたりだとか、お掃除を手伝ったりだとか、ほかにも動物を連れてくる以外にやることっていっぱいありますので、実際にチームの中で、動物を連れていない方が参加すると非常に助かるんですね。私たちのチームでも、必ず2名の方が動物なしで参加してくれます。ですから、私は動物連れてないけど、あるいは動物が年取って参加できないけれども、こういう活動に参加したいという方が相談に見えるんですけども、そういう方にもぜひ参加してくださいというふうにお話しています。

○柴内先生 J A H Aでは、戸塚先生が今御発表なさったほかに、先ほどもヒルズのヨシムさんがおっしゃってくださいましたけど、施設、同居動物の支援もしております。最近はずっと少なくなっていますけれども、ヒルズ1号、2号、3号、4号までを、ヒルズさんがわんちゃんの基本の代金と生涯のフードを支援していただいて、そちらで育ててる子もいます。グループホームにシーザーを差し上げたところが一番大変幸せに、グループホームは9人の方のお部屋があって、その9人の方のペットとして同居動物がいるんですが、そういうペットがいると、皆さんお散歩に行く率が多い。それから、お部屋に集まって会話が進むといった効果を伺っていらっしゃいましたので、そうしたことも大変大事ではないかなと、こういうふうにして、お礼を兼ねて申し上げておきます。ありがとうございます。

○戸塚座長

きょう触れましたのは訪問活動のお話だけで、同居動物のお話がなかったものですから、その辺も今、柴内先生にお話しいただきましたけれども、実際は、私

たちの活動が根づいて同居動物がふえることが、より高齢者にとってよいことになるのではないかと考えております。

まだ質問があるかと思いますが時間が迫っておりますので、済みません、これで終わりにします。

どうもありがとうございましたと自分で言うのもおかしいんですが、引き続きまして、A A Aに関する発表ですね。動物介在活動に関する発表としまして、神戸市灘区にございます特別養護老人ホームきしる荘の施設長でいらっしゃいます種稲憲太郎様に御発表をいただきます。よろしくお願いいたします。